

座談会  
行って分かった  
国連利用のカラクリ

出席者(左から)

司会 藤岡 信勝 (拓殖大学客員教授・新しい歴史教科書を  
つくる会副会長)

細谷 清 (日本近現代史研究会事務局長)

山本優美子 (なでしこアクション代表)

藤木 俊一 (テキサス親父日本事務局)

藤井 実彦 (論破プロジェクト実行委員長)

関野 通夫 (慰安婦の真実国民運動幹事)

〈1〉ジュネーブに集結した同憂の面々

■「慰安婦の真実国民運動」の創立

藤岡信勝(司会) 二〇一四年七月十五・十六日にジュネーブの国連欧州本部で「自由権規約委員会」と呼ばれる会合が開かれました。この会合を目指して、「慰安婦の真実国民運動」は調査団を派遣しました。この調査団のメンバーとして、ジュネーブにお出かけになった皆さんに、きょうはお集まりいただきました。

そこです、今回のアクションの母体となった「慰安婦の真実国民運動」について、簡単に自己紹介しておきます。

一九九〇年代に日本たたきのテーマとしてつくられた慰安婦問題は、二〇一〇年代になると、想像もつかなかった展開を見せるようになりました。韓国ソウルの日本大使館の前、道路を挟んだ向かい側に、慰安婦の少女像が置かれたのです。二〇一一年十二月十四日のことです。

さらにアメリカでも、各地の公立図書館の敷地などに、同様の慰安婦像が設置されるようになりました。推進したのは、在米のコリアンたちで、背後で支援したのが「抗



藤岡信勝さん

うとする立場の団体や個人が参加し、対等な立場で連携しています。単位団体の自主性がおかされるようなことはありません。事務局は「新しい歴史教科書をつくる会」の事務所に置かれています。同会は慰安婦が歴史教科書に載ったことがきっかけとなって結成された団体であり、この問題に長年取り組んできました。

### ■ 慰安婦問題の挽回のため国連行きを提起した細谷清さん

藤岡 それにしても、「慰安婦＝性奴隷」説を製造し、広めたのは国連です。それは今も続いていて、日本政府に押し返り返し不当な「勧告」を出しています。これを朝日新聞などが大きく報道し、「国連幻想」にとらわれた日本人を洗脳していくことになりました。

そこで、私がかねてから、保守系の「国連活動家」といった人が出てこないものかという問題意識をもっていました。国民運動が出来てから、まさにそういう人物にめぐ

「日戦争史実維護連合会」と称する在米のチャイニーズたちの反日組織でした。その典型例は、ロサンゼルス郊外のグレンデール市に設置された慰安婦像です。二〇一三年七月九日、市議会では慰安婦像の設置の是非を巡って公聴会が開かれ、在米の日本人も多数発言したのですが、五名の議員からなる市議会は、同日、慰安婦像の設置を決めました。

日本人の感覚からすれば、そんなことをしたら、日本を貶め、糾弾するという効果はあるかも知れないが、自分たちや自分たちの国の恥にもなると思うのですが、コリアンたちはそういう恥の観念はないらしく、グレンデールだけでなく、アメリカの各地に慰安婦像や碑の設置がひろがる勢いです。

慰安婦問題に取り組んで来た日本の団体はいくつもありますが、こうした状況に危機感をいだき、ばらばらに行われていたそれぞれの団体の活動をお互いに助け合い、情報交換を緊密にする連絡協議機関のような組織をつくり、慰安婦問題により効果的に取り組もうとする機運が高まってきました。そうした中で、「慰安婦の真実国民運動」は、二〇一三年七月二十九日に創立されました。この組織には14の団体が加盟しました。代表には、外交評論家の加瀬英明氏が就任しました。

国民運動は上意下達の性格の組織ではありません。慰安婦問題で日本の名誉を守る

りあったのです。

それが細谷清さんでした。

私は細谷さんがジュネーブの国連の委員会に行ったことがあるという話を聞いて、ぜひ、国民運動の幹事会で一度時間をとってまとまった話をしてほしい、とお願ひしました。それが実現したのは、二〇一四年の四月二十五日です。

その話のなかで、六年に一度開かれる自由権規約委員会がその年の七月にあると聞いて、今回、ぜひ代表団を派遣すべきだと思ひました。そのことを幹事会に提案すると、幹事の中には、慎重論や時期尚早論もありましたが、私は早開のわれわれが今こそ打って出るべき時だと考えたのです。

国連に行くのは、今までは左派のNGO団体ばかりでした。なぜ、左派ばかりなのか。そうした左派の国連活動に対抗する戦いが何としても必要です。ただ、熱意があっても能力というか、国際レベルでの知識や情報、さらには経験が必要ですが、そうした人材があらわれないと対抗できないと思ひていたので、細谷さんに出会って、まさにチャンス到来という思ひでした。

そこです、細谷さんから、どうして国連に行くことになったのか、というあたりから話してくれませんか。

細谷清 私は民間会社で海外でのプラント営業・事業開拓をしていました。同時に放送大学大学院で近現代史を勉強していました。論文を出張先で書くような二足のわらじでした。会社を二〇〇九年に早期退職し、岡本明子さんが主宰していた「World Congress of Families」(世界家族会議)という会に参加しました。これが保守活動の始まりです。この団体は国連経済社会理事会の協議資格を持つNGOで、協議資格を持つ保守のNGOは極めて少ないのです。女子差別、家族の問題を考えるNGO活動として、二〇一〇年から二回、国連へ行きました。「児童の権利条約委員会」の調査が中心でした。その経験から「慰安婦問題で換回するなら国連に行くべきだ」と思ひました。

ところが、その貴重な保守系のNGOが、結局分裂してしまつたのです。

藤岡 どうして分裂したのですか？

細谷 国連に勧告するのはおこがましい、という人たちがいて、意見が合わなかつたのが理由ですね。これも一つの、いわゆる国連信仰といえます。

▼細谷清(ほそや・きよし)さんは、昭和24年、茨城県日立市生れ。早稲田大学商学卒  
専攻、放送大学大学院(学術)博士。プラント製造会社で国際事業に携わり、国内外で営業

事業開発・運営を担当。平成20年より専門学校等で国際ビジネスの講師を務める。民間団体の近現代史研究会事務局長も務めている。

細谷 そのNGOが企画した講演会で、「なぜ慰安婦問題がアメリカで問題になったのか」というテーマで、山本優美子さんに講演してもらったのです。

藤岡 なるほど。そこで山本さんとの連携ができたわけですね。保守派もジュネーブに行くべきだという細谷さんの提案があり、それに真っ先に乗ったのが山本さん？

山本優美子 そうです。私は細谷さんのジュネーブ行きの話を事前に聞いていたのよ。(笑)



細谷清さん

### ■日本女性として声をあげた「なでしこアクション」の山本優美子さん

藤岡 私が山本優美子さんに初めてお目にかかったのは、二〇二二年十一月六日、議員会館で開かれた集会に来て短い発言をしてほしいと依頼されたときです。その会合にはかなりの数の国会議員が参加し、会場にはたくさんの方の聴衆がおりました。

慰安婦問題は、このテーマの特殊性から、われわれ男性が発言するよりも女性が発言した方が十倍も説得力があると思ってきました。だから、山本さんが女性の立場で強力な発信を始められたとき、本当にありがたく、こういう方が出てくるということには日本民族の底力を示すものだと思います。そして、山本さんは今後大きな働きをしてくださるに違いないとすぐに確信をもちました。

国連行きの動機などを話してください。

山本 私はジャーナリストでも、もちろん政治家でもありません。一般的な一女性の立場から、大事であると思ってきたことが二つありました。

一つは地方議会における慰安婦意見書の取り消し。もう一つが国連に対するアピールです。今回の調査団の提案はその両方をかなえてくれるものでした。これはぜひともジュネーブに行かなければいけない、ということで調査団の団長を引き受けました。

山本優美子さん



藤岡 山本団長、細谷事務局長という布陣が出来あがったわけですね。

▼山本優美子（やまもと・ゆみこ）さんは、上智大学卒。主婦。ボランティアとして保守系の活動の手伝いをしていくうちに、慰安婦問題は女性が取り組むべきテーマだと考え、二〇一一年に「正しい歴史を次世代に繋ぐネットワーク／なでしこアクション」を立ち上げ、代表となって活動を始めた。「なでしこアクション」のホームページ <http://nadeshiko-action.org> では、英語圏の動向をいち早く伝えるとともに、対外発信、著名運動、公的機関への発信の組織化、等々、パソコンを駆使した精力的な活動を展開している。それらは、多くの人にとって貴重な情報源となり、大きな影響を与えている。オーストラリアの慰安婦問題の状況を現地知らせたのも山本さんだった。「NPO法人歴史の真実を求める世界連合会（G.A.H.T.）」の役員も務めている。

### ■「テキサス親父」の生みの親藤木俊一さん

藤岡 次は「テキサス親父」の日本事務局の藤木俊一さんです。「テキサス親父」という、ネットのキャラクターは藤木さんが創られたのですよね。

藤木俊一 トニーさんはシーシェパードの問題に興味をもって取り組んでいました。インターネットに動画を流していたのです。それに私は字幕をつけて、勝手に動画をアップしていましたね。（笑）

二〇〇九年くらいからトニーさんと連絡を取るようになりました。そのうち、トニーさんを日本に呼ぼうという話が出てきたのです。すると、「もう日本に呼ばれているよ」という話をトニーさんが教えてくれました。ところが二週間経っても、その団体から音沙汰なし。信用できないとトニーさんは怒っていました。そこで「僕たちがお力を出すから来てください」とお願いしたのです。そのときが二〇一一年の三月。来日の直前に東日本大地震が起こったのです。

▼テキサス親父と藤木俊一（ふじき・しゅんいち）さんについて。

「テキサス親父」の本名はトニー・マラーノ。テキサス州に住む67歳のイタリア系の好々爺。Youtubeやニコニコ動画での発音が注目を集め、テキサスに住んでいることから「テキサ

ス親父」という愛称で呼ばれている。トニーさんはカメラマンを定年退職してから、趣味のカメラいじりをしたり、新聞を読んで記事に対して投稿したりしていたが、そのうちビデオカメラを使って投稿し始めた。「テキサス親父」のニュースの論評は日本人に勇気と笑いを与えている。時事ネタ等を英語の教材にした本「コナキサス親父演説集」(飛鳥新社)など、数々の日本語の著書も発行されている。

藤木俊一さんは、一九六四年生まれ、24歳で電機メーカーを創業し27年間、営業部長、自動車関連機器、プラント輸出等の業務に従事する傍ら、約18年前より日本人の素朴らしさを伝える保守活動に知り拍子、二〇一〇年、テキサス親父日本事務局を創立。また、国際問題研究家



藤木俊一さん

として、テレビ、ラジオ、ネット等でも言論活動を展開している。

藤岡 藤木さんご自身について、少し自己紹介してください。

藤木 私は貿易関係の仕事で、二十二歳のころから海外へ出かけていました。東南アジアはみんな親日派です。韓国も、そのころは全然反日ではなかった。ヨーロッパに相対になってEJへ行くようになったが、税関で日本の赤いパスポートを見せると、写真もチェックしない。不思議だなと思って、税関の担当者に質問したのです。「しっかり見ないで大丈夫なの。俺はテロリストかもしれないよ」って、笑いながら言いました。

税関の担当者にごう言われました。「この国で罪を犯した日本人は一人もいない。日本人の信用度はすばらしいと思ったわけです。学校教育で日本人はひどい戦争を起こした国民だと教えられていたのとはまったく違っていました。日本はいい国だということを知りました。」

藤岡 うれしくなる話ですね。藤木さんが保守活動を始めたきっかけは何ですか？

藤木 保守活動をしていると、いろいろな方が言論活動をされておられますが、あまり広がっていない。今回の慰安婦問題の捏造も、知っているのはマニアが学者だけ

ですよ(笑)。一般に知つてもらうためにはどうすればいいのかを考えたとき、「アサヒ」の手法もありだなと思つたわけです。

藤岡 すばらしいアイデアでしたね。

## ■漫画を武器にした斬り込み隊長「論破プロジェクト」の藤井実彦さん

藤岡 次は「論破プロジェクト」の藤井さん、お願いします。

藤井実彦 私は二〇一三年八月一日まで、まったく保守活動などをしていないビジネスマンでした。父親の影響で竹村健一さんや渡部昇一さんの本を読んで、いいなと感じていたくらいです(笑)。

慰安婦問題を知って、これは韓国が政府ぐるみで行っている、異常なシチュエーションだと思いました。藤木さんと同じように、もっとみんなが注目してくれるようにしたいと漫画を使つての活動を考えたわけです。

藤岡 漫画を描かれるのですか？

藤井 私は絵を描きません。原作の担当です。漫画広告というジャンルを仕事にし

ています。医療系の説明などを漫画で解説する広告の製作をしています。

藤岡 あれはたしかにわかりやすい。

藤井 二〇一四年一月、フランスで開催された「アングレーム国際漫画祭」で藤木さんとの交流が始まりました。「論破プロジェクト」の目的は、二%いるといわれている保守層の、その周りにいる人たちを取り囲もうということです。二%という数字は、私のような広告やマーケティングに携わってきた人間にとっては、シェアを増やすという意味で挑戦してみたくする数字です。

▼藤井実彦(ふじい・みつひこ)さんは、経営コンサルタント。論破プロジェクト代表。昭和47年福岡県生まれ。青山学院大学卒業後、大手飲食店、IT企業、ソフトウェア業を経て2003年独立。2013年8月、慰安婦問題を漫画で海外に広める活動を始め、言論活動をスタート。FM局、インターネット番組など保守系番組の製作・司会、講演会の企画などにも携わる。



藤井実彦さん

## ■ビジネスの中でディベートをマスターした関野通夫さん

藤岡 最後は、ジュネーブで、他のメンバーが左翼とグルになった国連職員に会場から追い出されたのに、マークされず、会議を平然と傍聴するという不思議な体験をされた(笑)、関野通夫さんです。

関野通夫 父親が海軍の軍人だったこともあって、小学生のころから東京裁判や日本国憲法に興味がありましたね。ただ、元々はエンジニアでしたから、政治に携わる活動はしていませんでした。排気ガス規制法、いわゆるマスクー法が問題になった一九七〇年ころから、国際法などを担当するようになりました。リーガルマインドの必要性を、海外駐在経験を通して肌で感じています。

フランスに駐在していたころにディベート術を覚えました。彼らはとりあえず口ゲンカしないと解決しない。「黙れ」「俺の話聞け」といって相手の話をきかない。二〇〇一年にサラリーマンを辞めました。最後はアメリカに駐在でした。その後は実務翻訳をやっています。

私の保守活動のモチベーションはたったひとつです。今のままの日本では、孫にも祖先にも申し訳ないという気持ちです。

▼関野通夫(せきの・みちお)さんは、近現代史研究者。昭和14年鎌倉市生まれ。東京大学工学部航空学科卒。自動車製造会社で合計17年間の海外勤務を経験し、各国の文化の違い(比較文化)に興味をもち、平成15年自由社よりブックレット『日本を狂わせた洗脳工作』を上梓し、白痴軍の出したウオー・ギルト・インフォメーション・プログラムに関する当時の証拠文書を公開した。新しい歴史教科書をつくる会の熱心な会員でもある。

藤岡 そこで、国民運動の代表団・調査団として結集する過程を確認しておきましょう。まず、国民運動として、団長・山本一事務局長・細谷、という中心が決



関野通夫さん



まりました。

藤井 それに私や「テキサス親父」ことトニー・マラーノさんも同行することになりました。アメリカからは、グレンデールの慰安婦像撤去訴訟を行っている目良浩一さんなども加わってくださいました。

山本 団長の私と、事務局長の細谷さん、団員は今回の座談会に出席してくださいました。関野通夫さん、藤木俊一さん、藤井実彦さんに加え、ジュネーブ在住のエドワード博美さん、テキサス親父のトニー・マラーノさん、目良浩一さんご夫妻、仙波晃さん、大坪明子さんです。

藤岡 総勢十一名の方が、ジュネーブで集合したわけだ。

関野 私はこうした国連で活動をしてこなかったというのは、保守の怠慢だったと思いますよ。

藤岡 怠慢もそうでしょうが、こうした活動があることを単純に知らなかったのですね。正直言うと、細谷さんの二〇一四年四月の幹事会におけるお話は当初、難しくてわからなかったですね。(笑)

藤井 たしかに国連活動と聞いても、ハードルが高いというイメージでしたね。

藤岡 とこかく、それぞれの来歴と思いをひっさげて、ジュネーブに集合したわけ

ですね。

### ■後進国の代表者が日本たたきをするサロン

藤岡 ジュネーブに集合したのは二〇一四年七月二四日ですね。ジュネーブの印象はどうでしたか。

藤木 ホテルの回りに売春婦がたくさんいました。

関野 昼間からね。

藤木 彼女たちは二十四時間体制でしたね。(笑)

藤岡 ヨーロッパでは、売春は合法ですよ。そんな環境の中で、七十年前の日本兵を顧客にした合法的な売春を糾弾している。そのバカバカしさ。

山本 ティーサロンで日本をいじめるのが楽しいって感じですかね。

細谷 まさに偽善ですね。

藤木 実際はクラブ活動でした。人権委員会に参加し



左から細谷、山本、藤木の名氏。

細谷 実質的に機能しているのは安全保障理事会だけで、それも常任理事国が一国でもノーと言えば何も決まらない仕組みです。総会の決議すら法的拘束力はありません。ユネスコなどは、世界遺産の認定が始まるまでは、何をしているのかわからない国連機関でしたからね。

関野 国連は不十分な国際組織です。と同時にこれ以上の国際組織がないのも事実。過大な国連信仰を改めるか、日常の働きかけを強めるか、どちらかを選択するのが実効的な方法のほうです。

藤井 「国連人権理事会」はあくまでも国連の補助組織です。

さらにその下には、自由権規約委員会のほかにも児童の権利条約や女子差別撤廃条約な

てみて、国連は後進国のためにあるものだと思いますね。法制度がしっかりしていない国、自国で文化財を保存できない国のためのものです。

藤岡 国家になっていないような国を、国連がフォローするというか、国を助けるわけですね。

藤井 トニーさんは「アメリカ人は国連を信用していない」とはっきり言っていますね。あれはどういう意味ですか。

藤木 日本人は国連信仰がありますが、実際に国連を創設した国であるアメリカ人の目からみれば、自分たちの都合のいい団体だと思つていうことです。何も決まらないし、拒否権を発動するし、人権を問題にしている国が、一番人権を蹂躪しているわけですから。国連そのものが壮大なギャグだということです。それにア力が活躍している。

細谷 国連はルーズベルトとスターリンで決めたわけです。ヤルタで。ルーズベルトが死ぬ四カ月前ですから。

藤岡 教科書に載っている国連憲章などは、夢物語ですね。

藤木 実態としての国連は「世界連邦」のようなイメージとほど遠く、腐敗が指摘され無用論まであります。「戦勝国連合」ですよ。



山本さん

ど、日本が署名している十の条約に対応する委員会があります。二〇一三年に慰安婦問題について勧告が出された「傍聴禁止委員会」もその一つです。

私も話のうえでは「国連、国連」と言っていますが、朝日新聞など報道機関が書く「国連委員会が慰安婦問題で日本に勧告」という表現に、ついつい日本人は怖気づいてしまいます。国連信仰が利用されているのです。

山本 八月には人種差別撤廃条約、来年にはおそらく女子差別撤廃規約の委員会が開かれます。ここでもまた日本を攻撃するレポートが提出され、それに対する勧告が出れば大々的に報じられることになるでしょう。

藤井 保守の側も情報に敏感になって、しっかりした反論をするといった対応をとつ

ていかなければならないと思います。

山本 今後はわれわれ側のレポートをどっさり用意しなければなりません。左派側は多くの団体が、同じような内容でいくつもレポートを提出しています。費より量です。

藤井 私自身、国連についてあまりに知らなすぎたと反省しました。

### ■何も知らず、何でも信じる委員たち

藤井 帰国後、東京の青山にある国連広報センターに委員会等の仕組みについて聞きに行きましたが、それによると、われわれがジュネーブで参加したあの会議は「コンストラクティブ・ダイアログ」、つまり「建設的な対話をする場」だといいます。

本来の目的は、日本政府と自由権規約委員会がやり取りをして、規約委員会が「日本にはこんな問題があるそうだが、どうなっているのか」と質問をする。政府側がそれに答えるというやり取りをする場だということです。

しかし委員会はそれほど日本の情報を持ってはおりません。そこで、委員は日本のNGOが提出したレポートを活用して情報を吸い上げます。基本的にはNGOが提供する情報ソースは、メディアのものです。具体的にいえば新聞記事です。

もちろん朝日新聞でも、赤旗でもいいわけです。(笑)

藤岡 政党機関紙でもいいとはデタラメですね。

藤木 委員はすぐにだまされますからね。「公営住宅は性差別している」という日本の新聞記事をそのまま鵜呑みにしていたのには驚きました。左翼NGOが、自分たちの言いたい放題のことを言える場だということですよ。

藤井 「こんなふうに報じられている問題があります」とソース付きで提出すると、委員はそれをもとに政府に対し質問を投げかけるわけです。

今回もどこのNGOから出されたのか、「日本で放射能による死者が一七〇〇人も出たという情報があるが、本当か」との質問が日本政府の担当者につけられていました。日本にいればこんな情報を信じることはありえないのですが、委員は真剣に聞いています。日本側は「デマ情報です」と思いつつも、きちんと反論しなければいけません。

山本 この仕組みは「マッチポンプ」と言っていると思います。日本のNGOは、朝日新聞などが「日本は韓国の慰安婦に謝罪していない」「誠意が足りない」と報じた記事を扱ってレポートを提出する。委員はそれにしたがって、日本政府に対し、「女性の人権侵害に対して不誠実ではないか」と質問します。日本政府側も抗弁しますが、結果的に委員から日本に対する「勧告」が出ると朝日新聞などが大々的に報じるとい

うわけです。

藤井 日本を非難したい人たちの側で、情報がぐるぐる回る仕組みになっています。

藤岡 日本という高度の文明をもつ成熟した国家に対し、国ができかかっている程度のひよこのような国から出てきた委員が、もつともらしく勧告するとは、おこがましい限りです。

### ■人権理事会と、条約に基づく十の委員会

藤井 運営については国連に話を聞きにいつてきました。基本的な運営は、表(本書388頁389ページ参照)の通りです。

国連への議案を提出できるのは、国連にNGOとして登録した団体だけです。逆に日本ではNGO登録がなくても、国連のNGOには登録できます。

細谷 誰でもNGOを名乗り、国連にNGO登録をすれば、議案が出せるということですよ。

藤岡 皆さんが今回見学した国連人権理事会自由権規約委員会について、もっと具体的に説明してください。

藤木 四年任期の一八名の委員から構成され、通常、年に三回、三週間ずつ会期を開き、そのうち三月にはニューヨークの国連本部で、七月と十一月には国連ジュネーブ事務局で行います。

藤岡 国連の人権委員会というのは、そもそもなんですか？

細谷 歴史から説明させてください。経済社会理事会の補助機関として一九四六年に成立したのが国連人権委員会です。二〇〇六年に人権委員会は解消して、人権理事会に、発展的に改組されました。(399ページの比較表参照)

今回マスコミが「人権委員会」と呼んでいるのは「自由権規約委員会」を指していて、旧人権委員会とは別組織です。旧人権委員会が起草した一九六六年の国際人権規約(条約)に基づいて置かれた組織です。

藤岡 そのあたりが実にややこしい。

関野 英文でもわかりづらいですよ。

細谷 国際人権規約は、社会権(A規約)と自由権(B規約)に大別されます。社会権が社会権規約委員会に、自由権が自由権規約委員会によって、締約国が監視されているわけです。

日本が批准したのは一九七九年です。A規約は職業選択の自由や労働者の団結権、

生存権など日本国憲法で保障されている内容と重なっている内容と重なっている内容、今まで大きな問題になっていません。日本は対象外の国といっているんです。

藤岡 問題になるのはB規約ですね。

細谷 B規約は個人の権利を認定し守るのを目的とします。差別的禁止や表現・信教の自由、参政権の保障など、憲法で保障されている項目が多いのですが、規約を具体的に保障する二つの選択議定書、「議定書1」と「議定書2」を日本は批准していません。

藤木 そのことを戸塚悦朗氏は強調していましたね。

細谷 「議定書1」は主に憲法が定める司法権の独立との兼ね合いから、例えば旅行などで訪れたある国で冤罪を着せられた外国人らが「議定書1」を批准している国ならば個人通報制度を用いて人権侵害を訴え出られます。

「議定書2」は死刑廃止で、刑法に「死刑」を明記する日本は法改正なしで批准できません。今回の勧告で話題となった元慰安婦問題については「本人の意思に反する行為」で、ゆえに人権侵害である、としているわけです。侵害した以上は政府など国家が公開謝罪し賠償を受けられるよう求めてきました。

藤岡 日本側は立場を表明してききましたよね。謝罪はすでに行っている。その上

に償いの事業である「アジア女性基金」も実施した。賠償の請求権は国交回復した一九六五年の日韓基本条約と同時に結んだ請求権・経済協力協定で解決している。委員会に出席した日本政府代表も反論したものの、聞き入れられなかった形ですわ。これは明らかに「内政干渉」です。

藤井 しかし、日本は条約を批准していて、今回の勧告も締約国が六年に一回審査を受ける、いわば定期審査の結果に過ぎません。約束だから審査は仕方ないのです。

山本 さらにいえば、法的拘束力もなく単に国連傘下の委員会から見解を示されたという「だけ」です。したがって勧告をどうとらえるかは日本側の自由です。

細谷 慰安婦問題は基本的に日韓の二国間問題のはずですから。

藤岡 勧告に対する日本の態度としては、必要と思えば改めるし、でなければ無視していいということでしょう。

### ■日本のメディアへの記者会見

山本 七月十五日に全体会議のあと、夕方の六時から日本のメディア向けの記者会見を現地のホテルで開催しました。約二時間半に及びました。

藤本 私が司会を務め、トニーさんも米国人からみた慰安婦問題に関する見解や今後の予定を説明しました。

藤岡 記者会見の発言者はどなたですか。

山本 こちら側からは他には目良さんですね。国連機関から一名、NHK、読売新聞、産経新聞、時事通信社です。

#### 【記者会見における山本団長の発言】

二〇一四年七月十四日（日）、ホテル・プリストル・シユネーフにて行われた記者会見における、山本徳美子団長の発言全文は次のとおり。

今晚は、皆さんにお会いでき、とても嬉しく思います。

私は、ちでしニアクションの代表、山本徳美子と申します。

ちでしニアクションは「慰安婦＝性奴隷」の嘘に終止符を―を目標にした日本女性有志の集まりです。

海外での日本を非難する慰安婦法議や慰安婦記念碑建設に反対する運動をしてきました。

た。

なでしこアクションは、慰安婦問題に取り組む団体の集まりである「慰安婦の真実国民運動」と連携しています。この度、「慰安婦の真実国民運動」で対国連調査団、The Japan's Collaboration Team for UN Committee<sup>2</sup>を結成しました。私が団長を務めます。調査団は七月十五日と十六日に自由権規約委員会二一セッションに参加する予定です。私は昨晚ジュネーブに着き、本日ウィルソン宮に行つてまいりました。

ウィルソン宮はかつて国際連盟があつた場所で、建物には歴史を感じました。

国連はその国際連盟から引き継がれたもので、両方ともスイスにとつて誇りでしよう。われわれ日本人は国連を尊敬し、貢献し、協力関係にあります。

ところが、慰安婦は性奴隷であるという捏造の話を主張する団体によつて国連が誤つた方向に進んでいるようです。

自由権規約委員会のように、多くの人権関連の委員会が日本を非難するよつな一方的な勧告を表明してきました。

そこで、私たちは、慰安婦は性奴隷でなく、そのような話は捏造であることを説明するためにジュネーブにやつて来りました。

調査団の目的二点をご紹介します。

第一、日本の保守系団体として初めて国連人権委員会に参加します。

第二、人権委員会の仕組みと活動について調査し、今後の対策を確立させます。

第三、帰国後、報告書を作成し、国連の現状を内外に発信、国連における慰安婦問題の虚構性を世界に知らしめる契機とします。

次に調査団の慰安婦問題に対する見解を述べます。

1. 慰安婦とは何か

慰安婦は、自由時間を享受し、契約の下に高額の報酬をも得ていた戦時中の売春婦で、決して性奴隷ではありません。

証拠の一つとして第三国の資料である一九四四年米軍オフィシャルレポートには、慰安婦は日本兵平均の百倍近い高額の報酬を得て贅沢な暮らしをして欲しいものは何でも買入、自由時間もあつてスポーツ大会に参加したり、ピクニックに行ったり、娯楽があり会食にも列席した、と書いてあります。

この資料は、慰安婦が高給取りの売春婦以外の何物でもないことを示しています。

2. クマラスワミ報告

クマラスワミ報告は、彼の資料を元に書かれており、性奴隷の論拠に値する資料では  
ありません。

性奴隷の相関として一九九六年のクマラスワミ報告書「追加文書」があるが、本思議  
なことに前述の「集積レポート」は一切言及していません。

その代わりに「報告書」作品を証拠事実として参照するに記載しています。

この二作品は本人が捏造であると告発した吉田清治氏の物語「私の戦争犯罪」とそれ  
に依頼したヒラクス氏の「慰安婦」です。

この事実より、クマラスワミ報告はもつ人権のための報告書に値しないものと結論付  
けるべきであります。

### 3. 元慰安婦の話

残された「性奴隷」の論拠である元慰安婦の話は、まだ検証されていません。  
話だけでも検証をしないのは、「性奴隷」が捏造の証しではないでしょうか。

元慰安婦と称する人の話を検討してみるとその真実性に疑念が生じます。

クマラスワミ報告はそれらの検証がされていない彼女らの話を、「証言・証拠」としてそ  
のまま使っています。

この問題が顕在化したのは一九九〇年頃ですが、二十年以上も検証をしないのは証明  
できないからであり、性奴隷が捏造である証です。

以上が私たち調査司の慰安婦問題に対する見解です。

なでしこアクション報告にて米国の日本人のお母さまたちがたくさんメッセージが  
届きます。

カルフォルニア州のダレンテールにお住まいの日本人のお母さまからのメッセージの一  
部をご紹介します。

「私は日本人として、グレンデールの中央公園に出来た慰安婦像に対し私は非常に不  
安に思っています。

私には、七歳のハーフの娘がいます。

娘が言いました、「私の半分を嫌いになれないの。どうして私は嫌われるの？」  
像に教育的価値は全くありません。

右側のアメリカにおいて、歴史を日本人に対する人種差別を助長しています。

米国はさまざまな人が住む、多様な国です。旧敵グループが分断することなく、多様な人々が共生することが米国の本来の素晴らしさではないでしょうか。

グレンデールの慰安婦像には「私は日本軍の性奴隷でした」と刻まれています。

ニュージャージー州のパラセイスパークの記念碑にはこう書かれています。

「一九三〇年代から四五年まで日本帝国軍に拉致された二十万以上の女性と少女、慰安婦を記念して」

こうして慰安婦の存在は世界に広まっています。

この噂は日本人の尊厳を貶めるだけでなく、米国における日本人、日系人の安全も脅かしています。

慰安婦問題は決して次の世代の子供達に残してはいけません。

私たちはそのためにジュネーブで声を上げるのです。

ご清聴有難うございました。

## 〈2〉 国連委員会は左翼の巣窟

### ■前日の公式会議から排除される

藤岡 いよいよ調査団が参加した国連自由権規約委員会ですが、どのような様子でしたか。

山本 今回の委員会の会期中には日本以外にも数か国が審査対象になっていましたが、日本人のNGO関係者がダントツに多かったですね。七十人くらいいたのではなにかと思います。

藤井 日本人のNGOのメンバーがお揃いで新調したかのようなチュウリップハットをかぶっていたのが印象的でした。(笑)

細谷 今回、私たちが行くまで国連の場は、ほぼ彼らの「独壇場」でした。今回も三十団体で三十六本のレポートが提出され、そのうち八本が委員会に先立つ七月十四日、十五日に行われたNGOブリーフィングの対象になりました。ちなみにその八団体のうち、慰安婦問題について報告したのは一団体です。

山本 「アクティブ・ミュージアム」女たちの戦争と平和資料館(wam)」のほかにも、



NGO主催のミーティング参加も拒否される派遣団。詰め寄るメンバー達。写真一番右は日弁連 NGO 団長の海渡雄一氏。

藤岡 初日は、会議に出ることもできなかったわけですか。

細谷 そうです。

藤井 事前に細谷さんが、CCPRセンターという各国の市民やNGOを取りまとめている国連NGOに連絡を取り、「NGOフリーフィンク会議に参加したい」と申請していたにもかかわらず、です。

藤岡 それが通訳付きという会議ですね。

細谷 NGOフリーフィンクは、英語による委員とNGOとの直接対話の場になります。CCPRからは、「うちとしてはいいけれど、申請が通ったかどうかはわからない」と言われていました。現地で日本の市民団体の動きを取り仕切っているリー

アムネスティ・インターナショナル日本、外国人権法連絡会、在日本朝鮮人人権協会、国際人権活動日本委員会など二十三団体が参加して、NGOフリーフィンクのフォーマル会議では、そのうちの八団体が発言の機会を与えられていました。

藤岡 フォーマル会議というのは？

細谷 通訳付きの会議です。

藤木 審査前日（七月十四日）のそのフォーマル会議という公式フリーフィンクに参加した山本団長らには、「発言者でないなら出てください」とのつけから問答無用の強制排除がありました。正体不明の男によって追い出されてしまいました。特定の団体を門前払いにするバウンサーが控えていました。

翌日の非公式フリーフィンクも、立ち入りを規制されました。「事前登録がない」の一点張りで、徹底排除でした。日本から訪れている他のNGOが徒党を組んでいたのです。非公式フリーフィンクを主催したのは、日弁連などがつくる「ジャパン・NGO・ネットワーク」なるナゾの組織です。日本国内での事前の「取りまとめ」に参加していない団体は、排除するシステムだといっていました。

藤井 私たちは、「スピーチする人以外は出て行ってください」と言われ、発言どころか会議に出席することすら拒絶されてしまいました。

ダークの団体に話を通っていないということで、会議から締め出されてしまいました。

山本 最初はセクレタリーとのやりとりをしていたのですが、そのうち「今回の委員会をコーディネートする日本のNGOの代表とやりとりしてください」と言われて連絡してみると、部落解放同盟なのです。そこが日本側の参加団体を取りまとめられています。

彼らは「反差別国際運動」という国連の正式なNGOとして登録しています。ジュネーブにも駐在所を置いていて、日本の参加団体を取り仕切っているポジションについています。

細谷 この登録は「特殊諮問資格」というものですが、資格を得るのは活動実績の年数なども含めて、かなり条件が厳しいわけです。左派側では日弁連やピースポートのほか、「新日本婦人の会」という共産党系の団体も登録しています。

藤岡 関野さんは会議に入られたのです。

関野 はい。私とエドワードさんはまったく無視されてしまいました。(笑)

## ■左派の独壇場となる構図

山本 NGOフリーフィンダでは、彼らが提出したレポートに基づき、委員の前で、英語でスピーチを行います。委員に直に訴えられるいい機会です。彼らが何を訴え、委員がどんな点に興味を持つのが分かれます。そのため、私たちもそのフリーフィンダを見学したかったのですが、「正式なレポートを提出していないのでだめだ」と言われてしまいました。

細谷 仮に提出したとしても、スピーチの対象になるレポートがどのように選ばれているのかはわかりません。このあたりのことをアレンジしているのも、やはり反差別国際運動という団体です。

山本 私たちもフリーフィンダの場合、「日本には『性奴隷なんて嘘だ』と考えている団体もある」とアピールしたかったのですが、部屋にも入れてもらえませんでした。

藤井 反論のために用意した資料は、一部の委員が渋々受け取るという感じでした。委員の多くは、会場のロビーにいる各団体からパンフレットやビラ、資料などを大量に手渡されています。今回は朝鮮学校の女子生徒たちがチマチョゴリを着てきて、朝鮮高校の無償化除外反対を訴えるパンフレットを作って手渡していました。

山本 委員たちはそんな資料を山ほどもらっているから、私たちが「読んでください」と渡すと「慰安婦のことならもう知っている」。こちらが「これまでと違う立場の主張

です」と言っても、「もうこんなに資料をもらっているから」と素っ気ない。まあ、山積みの資料を見れば、そう言いたくなる気持ちにはわからないでもありません。(笑)

藤岡 提出されるレポートに対する「検証」は事前や事後に行われますか？

細谷 あくまでも会議では「対話」がメインであって、批判や検証をする時間はないうです。特に自由権規約委員会の開催は六年に一度のうえ、持ち回りですべての批准国について扱わなければなりません。提出したレポートにメディアの報道などのソースがあれば、それで情報の信頼性は担保できる、という感じですよ。

山本 委員には委員会開催前にレポートは渡っていますから、本人が調べるかもしれませんが、なかなかそこまではできないのではないのでしょうか。しかもさまざまな団体が同じような内容のものを提出しますから、委員は信用しますよ。

### ■意見の違う団体を排除

藤岡 そんな国連ではありませんが、委員会に参加してみたいかがでしたか。

藤井 私は今回、初めて自由権規約委員会に行ってみて、「ここは世界で最も軽やかに嘘のつける場所」だと思いました。「日本ではこんな問題が起きていますが、国内だ

けでは解決できません」と言つて、朝日新聞の記事を引用すれば国連に訴えられるのですから。

藤木 何も知らない人をだましている感じですね。

山本 私はジュネーブの美しい景色のなかに立つ国連欧州本部のなかで、左翼の妖怪が蠢いているという印象を持ちました。

日本では高度な言論の自由が保障されているからこそ、どんな論調であっても認められてしまいます。「日本を貶めるばかりではなくて、言論の自由のある日本の環境をありがたく思え！」と言いたいくらいです。

藤岡 意見の違う団体を勝手に排除するとはどういうことですか？

細谷 NGOの連中が、国連のような顔をしているだけです。運営をさせています。国連が事務局の権利を渡しています。NGOが自分たちに都合のいい論理を説明する場です。

藤岡 NGOがNGOを排除する。国連のパラドックスですね。

藤木 ただ、私たちのほうにも手続き上の瑕疵があったのかもしれない。そこは再度、検証しなければいけないと思います。

細谷 場所がない、といわれました。大きな部屋を用意したら、その問題は終わり

だといったのですが。

藤井 一五日のときは入口のほうが顕著でした。戦うモードでした。

藤木 目良さんもトニーさんも、掛け合ってみましたが、ダメでした。借りている場所だからという一点張りでした。

### ■委員というのは個人か

藤岡 委員は一八人が選ばれていますよね。今回は日本のことが議題なので、日本人の委員は排除された……。

細谷 そうです。自由権規約委員会の十八名の委員は、欧州七名、アフリカ五名、イスラエル一名、日本一名（被検討国出身の為欠席）、米国一名、中南米三名で、その内女性委員四名で構成されています。（226ページ参照）

アフリカの五名は、北アフリカのエジプト、チェニジア、アルジェリアと、南アフリカの南アフリカ共和国、モーリシャスです。中南米は、中米のコスタリカ、スリナムと南のアルゼンチンです。

藤岡 第三世界がほとんどですね。

細谷 私は個人的に南アフリカ、モーリシャス、スリナムの日本との付き合いが比較的薄く、産業発達度の低いこれらの国に注目していました。日本を知らない点が悪用されかねないからです。

委員会議長はイギリス人でサーの称号を持つロドレー氏。ウィットを織り交せて話す典型的な英国紳士でした。

藤木 国連のNGOの中には、いくつかの段階があります。総合諮問資格、特殊諮問、個別資格です。

山本 私たちは単なるプロフィール登録だけです。

藤岡 委員が対象国の政府に対してする質問を、NGOたちが事前に委員たちにレクチャーするわけですね。

関野 反日のNGOと、事前も事後も綿密に打ち合わせをしていましたね。

藤井 委員たちはNGOのことを完全に信じている。まさに性善説です。

藤木 無知な人というか、日本のことが全くわからない人に慰安婦問題を判断させているわけです。国際的な美人局ですね。

藤岡 この十八人というのは、どうやって選ばれるのですか？

細谷 批准国が推薦して、役員は最終的には選挙です。

藤井 各委員会ことに基準があるといっていましたよね。「委員会は、高潔な人格を有し、かつ人権の分野において能力を認められた一八名の委員で構成されること」とされている（規約二八条）。

藤岡 だれが推薦するのですか？ どのような権限で、だれが選ぶのか。

藤井 国を代表してはいないので、委員の意見は国家の見解ではなく、個人の発言であるということでした。

藤岡 そういうNGOからの情報提供を受けての委員会は、どういう風に進むのですか？

山本 委員会に先立ち「List of issues」として、今回は二十八項目が日本政府に提示されています。いわば、質問項目です。それに対して、日本政府側は答を用意してきて、委員会の場で対話をする格好になっています。日本政府の代表は三十人で、今回慰安婦問題は二十一番目にナンバリングされていました。

細谷 左翼はもう八〇年代から国連への働きかけを行っていますから、われわれとは経験の蓄積が進みます。その代表的人物が、戸塚悦朗弁護士ですが、今回もジュネーブに来ていました。

藤木 彼は日弁連の一員として、今回の委員会に来ていたようです。福島みずほ議

自由権規約委員会  
委員名 (Member)

	Name of Member	Nationality	Term expires
1	Mr. Yadh BEN ACHOUR (Vice-Chairperson)	Tunisia	31.12.2014
2	Mr. Lazhari BOUZID	Algeria	31.12.2016
3	Ms. Christine CHANET	France	31.12.2014
4	Mr. Ahmad Amin FATHALLA	Egypt	31.12.2016
5	Mr. Cornelis FLINTERMAN (Rapporteur)	The Netherlands	31.12.2014
6	Mr. Yuji IWASAWA	Japan	31.12.2014
7	Mr. Walter KALIN	Switzerland	31.12.2014
8	Ms. Zonke Zanele MAJODINA	South Africa	31.12.2014
9	Mr. Kheshoe Persad MATADEEN	Mauritius	31.12.2016
10	Mr. Andrei Paul ZLĂTESCU	Romania	31.12.2014
11	Mr. Gerald L. NEUMAN	U.S.A.	31.12.2014
12	Sir Nigel RODLEY (Chairperson)	United Kingdom	31.12.2016
13	Mr. Victor Manuel RODRÍGUEZ-RESCIA	Costa Rica	31.12.2016
14	Mr. Fabián Omar SALVIOLI	Argentina	31.12.2016
15	Ms. Anja SEIBERT-FOHR	Germany	31.12.2016
16	Mr. Yuval SHANY	Israel	31.12.2016
17	Mr. Konstantine VARDZELASHVILI	Georgia	31.12.2016
18	Ms. Margo WATERVAL (Vice-Chairperson)	Suriname	31.12.2014

地域	18ヶ国	国名
欧州	7	英、独、仏、蘭、スイス、ルーマニア、グルジア
アフリカ	6	エジプト、チェンジア、アルジェリア、イスラエル、南ア、モーリシャス
アジア	1	日本
北米	1	米
中・南米	3	コスタリカ、スリナム、アルゼンチン
オセアニア	0	なし

員の事実上の夫である海渡雄一弁護士も一緒でした。

藤岡 藤木さんたちはインタビューしたんですね。それはとても重要な情報ですから、別項で藤木さんに詳しく書いてもらおうことにしました。

### 〈3〉前進と後退と

#### ■日本政府が「性奴隷」を否定

山本 七月十五日、日本政府が慰安婦問題に対する日本の立場を回答するのですが、そこで今回、政府側の山中修外務省人権人道課長は、「質問のなかに『性奴隷』との不適切な表現がある」と指摘しました。

細谷 日本政府が国連で初めて「性奴隷」を否定した瞬間です。

二〇一三年の十一月十四日に委員会から出された事前質問に対して、日本政府の二〇一四年三月六日の回答では、「性奴隷的慣行 (Sexual slavery practice)」を無視しましたが、ここジュネーブに来て、会議の冒頭に性奴隷を否定する画期的な発言をしたわけです。

藤岡 そのときの委員会の様子はどうだったんですか？

藤木 会場からは拍手が起きました。

藤井 この拍手に対して議長が「被害者の女性に関する配慮がない」というコメントがありましたね。

細谷 長旅と時差で少し呆けていた頭に、山中副団長の性奴隷を否定する発言はそんな疲れを吹き飛ばすほどに新鮮でしたね。この発言に対して委員会はその日は沈黙し、翌日(十六日)になって急に猛反発しましたが、それは尻すぼみとなりました。委員会にとつても会冒頭での重大な発言なのに、その日は何等反論も質問も出ず沈黙していました。最後の締め括りでは事態の急変に対してどう理



ジュネーブ、自由権規約委員会で写真を撮りまくる反対勢力の面々。写真撮影禁止の場所である。

解しよう対処すべきなのか戸惑っているように見えました。

藤井 あきらかに動揺が見えました。第一日の午後には反論出来る機会があったにも拘らず、ヘイトスピーチと家庭内暴力に関して質問したのみで、慰安婦問題には全く触れませんでした。

山本 前提として、「規約締結前の問題に遡って適用されないため、慰安婦問題を自由権規約委員会で取り上げるのは適切ではない」とも言っています。

細谷 翌日の検討会二日目になって南アフリカのマジヨディーナ女性委員だけが反論して来ました。私が危惧していた南アフリカの委員です。

藤井 彼女は、「日本が被害者を慰安婦という遠回しな言葉ではなく、強制的性奴隷と適切に呼ぶべきときはとくに来ている」と述べました。

細谷 しかし、これに対しても、山中氏は再度、「性奴隷という表現は適切ではない」とはつきり述べています。日本政府として一度、「性奴隷」という表現を否定しました。今回はこれが肝です。

マジヨディーナ委員は、「日本政府は一九九三年の河野談話で、日本政府当局が強制連行をした慰安婦制度を歴史的事実とし、歴史の教訓とすることを認めました。二十年経った今、日本政府は歴史の第一教訓として、遠回しな慰安婦 (comfort women) の

代わりに正しい言い方として性奴隷 (sex slave) と呼ぶべきである」と、迫ったわけですが。

われわれはマジヨディーナ委員に性奴隷否定の意見書を事前に配ったが、まさに馬耳東風。それにしても近々古希を迎える割には力が入った演説でしたね。

藤井 しかし、前日の山中副団長の性奴隷を否定した見解には全く反論しませんでした。すでに出来上がった原稿をもっともらしく読んでいるように見えました。

細谷 山中副団長は前日の見解を改めて説明し、さらに河野談話の検証でも軍が関与する強制的な連行は確認されなかったことを付け加えて、「性奴隷」と呼ぶことは適切ではないと前日の発言を改めて確認したわけです。

藤井 日本政府はかなり踏み込んだ回答をしたと思います。あとはこれを委員がきちんと受け止めてくれるかどうか…。

「産経新聞 7月16日」 「『性奴隷』は不適切な表現だ」 日本政府代表、国連で表明

15日に国連欧州本部 (スイス・ジュネーブ) で始まった自由権規約委員会で、日本政府代表団は同日、慰安婦を「性奴隷」と表現することを「不適切」とする見解を表明した。日本政府が公の場で「性奴隷」の表現を否定したのは極めて珍しいという。日本政府代



国連自由権規約委員会の最後に、マジョディーナ委員に性奴隷の根拠を尋ねる派遣団メンバー。

### ■マジョディーナ委員との論争

表皿として委員会からの質問に回答した外務省の山中修・人権人権課長が、2008年の前回審査で委員会から出た質問に言及し、「質問には「性奴隷慣行」との不適切な表現がある点を指摘する」と述べた。この発言は、事前に公表された回答には明記されていなかった。「性奴隷」の表現は、1996年2月の「国連クマラスワミ報告書」で認定されて以降、拷問禁止委員会の13年の最終見解でも使用されているほか、米国で設置された慰安婦碑や慰安婦像などでも登場している。今年3月の参院内閣委員会で三ツ矢憲生外務副大臣は、「国連人権理事会等の場において、慰安婦問題に関し事実認識に基づき記載が受けられるため、通告申入れを行っている」として、06年に国連に日本政府の見解を出したことを明らかにした。自由権規約委員会は、表現の自由や、拷問や残虐な刑罰の禁止などの規定を締結した国々が、規定内容をどのように保障しているかを定期的に審査し、勧告を盛り込んだ最終見解をまとめる条約機関。国連総会の下部組織である人権理事会とは直接関係しない。

山本 「性奴隷の定義は何ですか」と聞いても答えませんでした。「そういうものなんだ」という感じでした。

藤木 奴隷法を調べると言っていますね。

藤岡 マジョディーナ氏とはどういう女性ですか。

細谷 国連のHPでは、マジョディーナ委員は一九四四年九月十三日生れ、南アフリカ大学で心理学を専攻し、ロンドン大学で修士を、ケープタウン大学で博士号を取得、国連等で人権関係の活動をしています。法律家でもアジア・日本に関する研究家でもないようです。

藤木 私は休憩時間に彼女へ性奴隷説の根拠をきいてみましたが、「たくさんあ

る、「広く知られていることだ」と答えるのみで、具体的な論拠を挙げることはありませんでした。

藤井 目良さんもマジヨディーナ氏に、「(奴隷と断定するならば) お金をもらっていないかったのか」と質問しました。「お金の授受は問題ではない、奴隷的な扱いを受けたことが問題」と答えて、続く質問を拒否しました。奴隷条約には「奴隷的な扱い」の規定はなく、委員が奴隷条約の内容を知っているとは思えません。委員会では断じて思い付きで質問したと思われず。

藤木 アジアのことも日本のことも、ましてや社会的・歴史的・国際的等の複雑な要素を持つ慰安婦問題に関して知悉しているとは思えません。なのに、なぜにかくも大胆に日本を断罪する意見を展開出来るのか、不思議でならない。

藤岡 先ほどの説明では、マジヨディーナは南アフリカを代表していない。

細谷 はい。マジヨディーナ委員は「南アフリカ」を代表しているわけではありません。委員たちは学者や教授といった権威のある方々ですが、その国家を代表して委員になっているわけではありません。だからマジヨディーナ委員の発言も「南アフリカの見解」ではなく、委員個人の「信条」です。

## ■ヘイトスピーチが第二の慰安婦問題に

山本 たとえば今回、目立ったのはヘイトスピーチに関するレポートです。

参加団体の一つである「ヒューマンライツ・ナウ」は以前から活動している団体ですが、メインとして慰安婦問題や原子力発電所、憲法改正、秘密保護法への反対などに加え、ヘイトスピーチをテーマにしています。

ヘイトスピーチを報告するレポートは、「在日朝鮮人は強制的に日本に住まわされた人たちの子孫です」という記述から始まるわけです。こんな嘘が平気でまかり通る。

藤井 在日特権を許さない会(在特会)に対する「しばき隊」側の情報といえばわかりやすいかもしれませんが、「最近、日本では外国人蔑視、ヘイトスピーチが目立っている」という情報だけが国連の委員会に持ち込まれるわけです。

山本 たしかに在特会も、時には汚い言葉を使うこともありますから、それに対する批判はあってもいい。しかし実際には、「外国人犯罪を撲滅せよ」とか「外国人の生活保護費問題を解決しろ」というちゃんとしたデモの目的があつて、警察にもきちんと許可を取ってやっていることです。

しかし、国連に持ち込まれる報告では「在特会はヘイトスピーチを目的としたデモ

をしている」と書かれています。「創氏改名で朝鮮人が無理矢理、日本人名にさせられた」という迫害、差別の歴史が語られるわけです。しかも関東大震災での朝鮮人虐殺にも触れます。「在日朝鮮人に対する蔑視が、いずれも虐殺につながる」とまで書かれています。英文のタイトルにも「genocide (民族絶滅)」の文字があつて、驚きました。

藤岡 先ほどの山本さんの発言にあつたように、朝日新聞あたりを中心に、「ヘイトスピーチ」「嫌中憎韓」関連の書籍が売れているといった報道を流すことで、国連に持ち込む情報ソースをせっせと作っているわけですね。

藤井 構造は慰安婦問題とまったく同じやり方です。埼玉スタジアムでのJリーグの試合で「Japanese Only」のプラカードが問題になりました。この件も盛り込まれていました。左翼メディアとNGO団体は癒着しているといつていいと思います。

山本 実際にはそういった報道は「反ヘイト」を装いながら日本を貶める「ヘイト」なのですが、こういうニュースは国連で使えますからね。こんなレポートばかりが山本のように提出されているのです。

一度も日本に来たことのない人権委員たちは、日本中で外国人排斥の運動が盛んに行なわれていると勘違いしますよ。

細谷 第三世界は要注意です。

山本 さらに気をつけなければならないのが、「慰安婦に対する批判もヘイトスピーチだ。法的に規制しろ」と彼らがアピールし始めていることです。これが認められれば、正当な批判もできなくなります。もはや、言葉狩りのような状態です。

### ■委員会の最終見解に拘束力はない

藤岡 委員会は最終見解で、日本政府の反対にもかかわらず、慰安婦を「性奴隷」とし、「日本は責任を公式に認めて謝罪し、元慰安婦らに『完全な賠償』をするように」と勧告しました。この勧告は、どういう意味を持ち、日本はどう対応するべきですか。

細谷 朝日新聞でもNHKでも、国連の勧告を報道していましたね。

藤岡 国連の勧告というのは、どう拘束力をもつのでしょうか？

関野 今回「性奴隷」とまで勧告で強調されたのは旧人権委員会や自由権規約委員会に従軍慰安婦問題を取り上げるよう九十年代から熱心に働きかけた内外のロビー活動の「成果」です。そちら側の情熱に対して右派側の対応が不十分だったのは確かです。先ほどもいいましたが、怠慢です。

藤木 元来、自由権規約委員会は、性質上あらゆる人権侵害だと認定するのが役割

藤岡 国連の名前を冠すればいいわけです。まさに無人の荒野を行くがごとく、世界に広がってしまいました。戸塚は言っています。国連の活動は一年や二年ではだめ。五年で形にした。「性奴隷」を定着させた。

戸塚悦朗弁護士は、世界日報とのインタビューで、「私が性奴隷と命名した」と自慢しています。戸塚氏は国連のNGOに所属する立場を利用して、二十回近い会合に出席し、慰安婦問題について国連人権委員会が勧告を出すよう執拗に働きかけてきました。吉田清治の話を英訳して配布し、慰安婦を「Sex Slave」と英訳して世界に紹介したのです。

一九九六年に出されたクマラスワミ報告書は、「性奴隷の根拠」を吉田清治の証言に求めています。「強制連行を行った一人である吉田清治は戦時中の体験をもとに書いた中で、国家総動員法の一部である国民動労報告会の下で、他の朝鮮人とともに一〇〇〇人もの女性を「慰安婦」として連行した奴隷狩りに加わっていたことを告白している」というのです。

クマラスワミの報告書の中で何度も引用されています。というか、それ以外に裏付ける資料はありません。元慰安婦の話だけです。それをもとに、この報告書は「日本政府が性奴隷についての法的責任を受け入れ、個人補償を行うこと」を勧告している



左から関野さん、藤岡さん。

藤岡 ところが、その流れが、二〇〇七年にはアメリカの議会決議になってしまった。未だにクマラスワミ報告は国連のホームページに掲載されています。

藤井 法的拘束力はないのに、箔をつけているわけですね。

であり、それをもって国連や国際社会の総意になるわけでもありません。

藤井 日本には根強い国連信仰があります。山本 だからこうした勧告が出るとビックリするのかもしれませんが。

■クマラスワミ報告書を無視したつけ

藤岡 クマラスワミ報告書はまさに荒唐無稽です。法的拘束力はありません。「Take Note」ということで、格が低い扱いだと思っ

ていました。

藤井 藤岡さんもそう思われていましたか。

藤岡 藤岡さんもそう思われていましたか。

わけです。

この報告書についての日本政府の対応も不可解です。当初、外務省はクマラスワミ報告に対して四十ページの反論書を出しましたが、なぜか撤回し、その後、半ページくらいの形式的な反論しかしていないのです。この経緯は不明です。当時は村山政権で、外相は河野洋平氏です。

いずれにせよ、「性奴隷」という言葉を日本人が発明して世界に売り込んだという事実、しかも外務省がそれに反論もしないで放置してきたわけで、この問題が国際的に既成事実になった大きな要因であると言わざるをえません。

### ■用意されていた最終見解？

藤岡 最終見解書は、二十五日と言われていたのが、繰り上げて二十四日に発表になりました。しかも「non-edited」暫定ですね。

河野 未編集ということですね。

藤岡 いずれにしても中途半端なものですよね。

細谷 見解書も何も議事録さえ出していないからね。山中さんの発言を省かれた議

事録しか出ていないわけです。なのに、最終見解はできている。議論をしていないわけですから、その事実が明るみに出れば、委員長は首が飛びますね。日本政府が否定した「性奴隷」をそのまま書いたというのは大問題です。

藤井 出来レースというか……

藤岡 審議の前に、見解が決まっていた。

細谷 二十五日に出すべき予定が、前に出したわけですね。

藤井 今までの予定調和の世界が崩壊したからでしょうか、日本のマスコミが使いやすいものを出したわけですね。見解書で世論を動かそうという悪意を感じますね。

## 〈4〉「空白の二十二年間」を埋める最初の一步

### ― 国連調査団派遣の意義と今後の課題

#### ■防御から攻勢へ―人権を侵害されているのは日本

藤岡 最後に、今回の成果について、それぞれに概括をさせていただきます。



第1次国連派遣団のミーティング風景。  
会合の参加を拒否され、次なる作戦を考える。

藤井 吉田清治証言などは、もう「用済み」になったということでしょう。ただ、吉田清治証言に基づく「強制連行」の嘘はクマラスワミ報告書などに盛り込まれていますから、まだまだ油断はできません。

関野 とにかくNGOは反日の独壇場だったということです。私は四つの「ない」だと思っていますが、「検証しない」「他の例と比較しない」「反証をチェックしない」「条約や法律の正確な知識がない」「西ない」です。

藤木 国連の委員会というのは完全に欠席裁判でしたね。中国ばりの裁判です。結論が出ていて、セレモニーの裁判です。

関野 私は外交戦争だと思いましたね。

山本 慰安婦問題が世界に広まってしまった原因の一つに、「アクティブ・ミュージアム」私たちの戦争と平和資料館（Wam）など左派系の市民団体が国連で活動し、それが国連の報告書などに反映されてしまうことが挙げられます。

同じように、地方議会では国連の勧告や左派のレポートが出回って、慰安婦問題が既成事実のように認識されてしまっている。この現状を何とか変えたいという問題意識がありました。

藤井 左派側は慰安婦問題を国連に持ち込み、出された報告書や是正勧告を使って、慰安婦問題を国内だけでなく海外にも広げてきました。ついにはアメリカで慰安婦像に関する下院決議が行われ、韓国人がアメリカに慰安婦像を建てる口実に使っています。ただ保守系は国連のことを知らなかった。これには驚きました。

悪魔のループというか、そういう悪循環のゴアになる部分に国連を使っています。その手法は敵ながら実に見事です。しかもいまは、朝日新聞の論調と歩調を合わせるかのように「強制連行の有無ではなく、女性の人權問題として扱うべきだ」との風が慰安婦問題にも吹いています。

藤岡 朝日新聞の検証記事を見ても、「戦地の慰安所があつて女性の尊厳が踏みにじられたことが慰安婦問題の本質だ」と、強制連行の話をすり替えています。

保守陣営もしつかりした準備と対抗をする必要があります。

藤木 われわれも国連に人権を侵害されているという意見書を出すべきです。

藤井 朝日新聞の虚偽報道によって、日本人の世界的な信用、人権が侵害されていると。

藤岡 朝日の捏造記事の切り抜きを集めればすむ？

山本 そうです。日本人はこうした人権侵害を受けていると。

藤岡 防衛より攻撃のほうが強いですからね。それは面白いですね。

山本 韓国からヘイトスピーチを受けているというのでもいいかもしれません。あるいは韓国人が日本で商売ができなくなっているから、売春婦の救済をしてほしい。売春婦の人権を守りましょうって。(笑)

藤木 グレンデール市の慰安婦像は、在日日本人の人権を侵害していると訴えるべきだとトニーさんは言っていました。気分が悪くなるって。

藤井 新しい意見書を出すことです。

細谷 私は一歩前進、二歩後退というイメージですかね。もちろん調査団が参加したことは大きな出来事でした。でもこれから左派がもっと活動を活発化してくるでしょう。ですから、保守陣営が活動を継続しなければ、後退してしまうという意味で後退

にならない活動が求められています。

### ■参加し、レポートを書き、NGO登録する

藤井 左派の動機はどうであれ、彼らは長年、国連の場で「活動」してきました。一方で、保守側は「国連」や「国際世論」の問題を指摘する声はありながらも、今回の調査団のように海外で戦うという動きはありませんでした。

山本 ぜひ、保守系の議員さんにも自由権規約委員会などの傍聴に行ってもらいたいですね。八月の人権差別撤廃条約の委員会では早速、有田芳生議員は「ヘイトスピーチ防止」を掲げ、辛淑玉<sup>シンソクユ</sup>さんを伴って参加を表明していました。

先ほども述べたように、ヘイトスピーチに関するレポートの提出はこれから増える可能性が高くなるでしょう。慰安婦問題への影響も懸念されます。新たな「日本攻撃」の材料になりますから、提出するNGOからすれば国会議員が来てくれるのは大きいと思います。ぜひ、保守側の議員さんにも来ていただきたい。

藤井 行ってみるまでは、国連は敷居が高いのではないかと思っていました。行ってみたら、やれる余地はまだあるとわかりました。



山本 私がみなさまにぜひやってもらいたいことは次の三つです。

- ①自由権規約委員会や女子差別撤廃条約委員会など、国連の委員会に参加する
- ②英文でレポートを出す
- ③国連にNGO登録をする

この三つをやれば、すこしずつでも変わっていきます。

藤岡 本日はありがとうございました。